群馬埼玉地域における広域的産業・物流活性化（事後評価）

群馬県の現状

群馬県・埼玉県においては、自動車関連産業等の産業拠点（工業団地等）が点在しており、両県間の物流も盛んになっています。また、既存の関越道、東北道に加え、圏央道、北関東道等の高規格道路の整備に伴い、これらの高規格道路ネットワークを軸とした「群馬埼玉地域」における産業のポテンシャルが飛躍的に高まっています。

課題と目的

上記のポテンシャルを最大限に活かし、産業における広域的な競争力を強化し、本地域のさらなる産業活性化を図ることが必要となっています。

このことから、群馬県・埼玉県の両県を繋ぐ道路、及び高規格道路と産業拠点とのアクセス道路を整備して物流機能を高め、群馬埼玉地域の広域的な産業活性化を図ります。

事業の指標と成果報告

指標１　製造品出荷額等の全国に占める群馬埼玉地域の割合

現況：6.8%(H20) ⇒ 最終目標：7.0%(H27末)
⇒ 最終実績：7.0%(H27末)

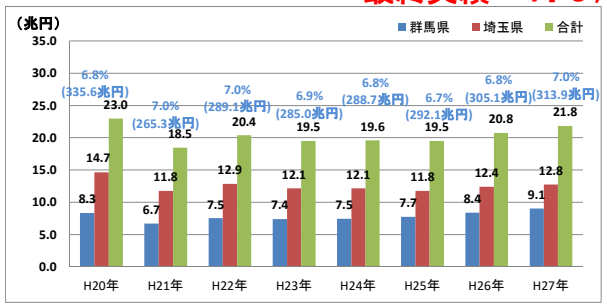


図10：製造品出荷額等の推移
※パーセンテージは全国に占める群馬埼玉地域の割合、()内は製造品出荷額等の全国値

製造品出荷額等は、中間評価時点では、目標を下回りましたが、最終的には、本計画実施による成果が現れ、最終目標を達成しました。

指標２　群馬県内における平成２３年以降の新規企業立地件数

現況：0件(H22) ⇒ 最終目標：350件(H27末)
⇒ 最終実績：441件(H27末)

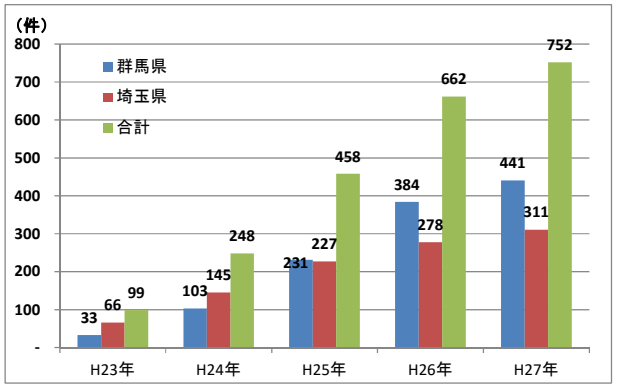
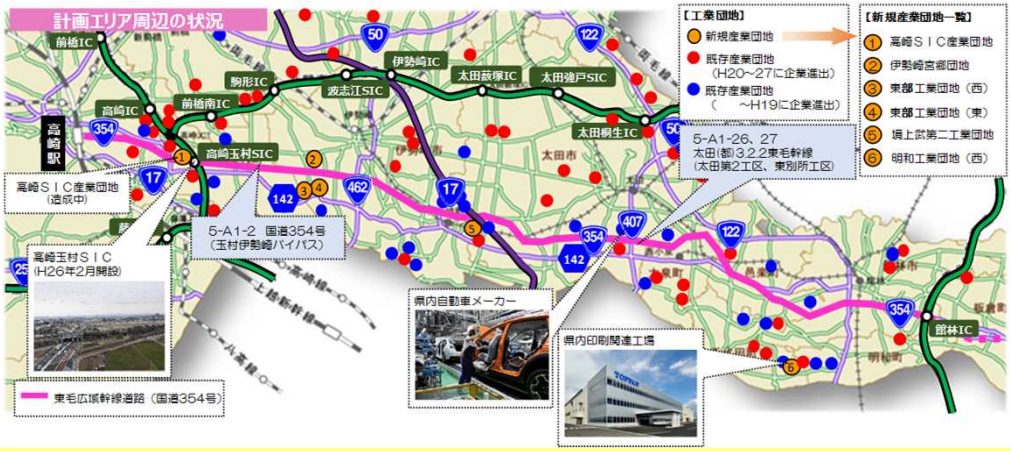


図11：新規企業立地数の推移（累積値）

新規企業立地件数は、最終目標値の約1.3倍の441件であり、本計画実施による成果が現れています。



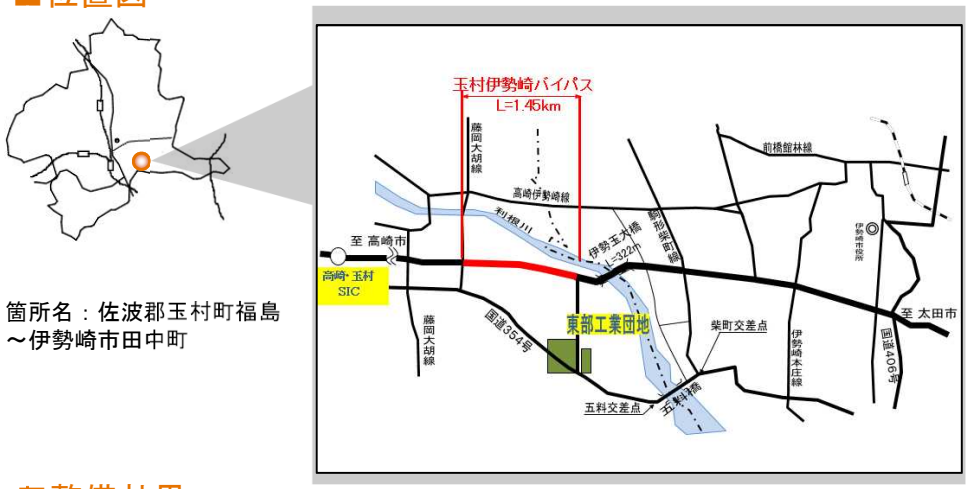
計画エリア周辺では、現計画策定後、スマートIC、バイパス整備が進みました。また、新規の工業団地造成や産業立地が盛んな状況となっており、本計画による整備効果が発現されています。

群馬埼玉地域における広域的産業・物流活性化（事後評価）

整備効果事例

事例①　国道３５４号（玉村伊勢崎バイパス）バイパス

■位置図



箇所名：佐波郡玉村町福島
～伊勢崎市田中町

■整備効果

整備前

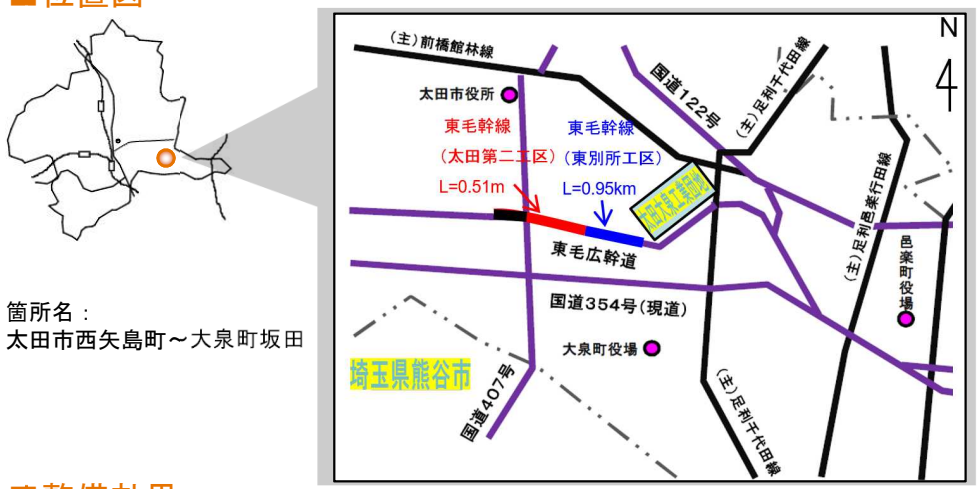
現道が渋滞するため、沿線の産業活動に影響をきたしていました。

整備後

東部工業団地と高崎玉村SICとのアクセス性が向上しました。

事例②　太田（都）3.2.2東毛幹線（太田第2工区、東別所工区）　バイパス

■位置図



箇所名：
太田市西矢島町～大泉町坂田

■整備効果

整備前

現道が渋滞するため、沿線の産業活動に影響をきたしていました。

整備後

太田大泉工業団地と埼玉県熊谷市とのアクセス性が向上しました。